
「お」から始まる。

碧汰*

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

「お」から始まる。

【Nコード】

N8982N

【作者名】

碧汰*

【あらすじ】

中2の男女、

出会い系サイトから始まった恋愛ストーリーです。

「押し間違い」の「お」から始まる2人の恋。

切なくて、笑えて、感動できる、最高の作品を目指しています。

1章 ・ 出会いの種は ・ (前書き)

2人は中2設定にしております。

フィクション設定ですが、私が実際に経験した恋愛場面も入っております。

そこは改造しまくりなので、フィクションという事でおねがいします。

駄文ですが、感想意見を下さると嬉しい限りです。

では、よろしくお願い致します。

1章 - 出会いの種は -

中学2年生、春。

私、桐島臨は、恋をしました。

それはとても、切ない恋で。

今から話すのは、私の初恋の話です…。

1章 - 出会いの種は -

さらさらと吹く風。

屋上で、携帯をいじっていた。

『出会いの種』

可愛いロゴで書かれた、ホームページのタイトル。

要するに、出会い系サイト。

昔から友達が少なく、いつも一人でした。

だからこうして、「出会い系サイト」を使って日々を送っている。

「…あつ」

「ごちゃごちゃ考えてたら、

ボタンの押し間違いで、ある人のマイページに入ってしまった。

あ…、男の人だ。

そう思った瞬間、ある思いが浮かんだ。

この人と、友達になれないかな？

それは、ほんの遊び心で。
本当に、ああなるとは思わなかった・・・

*

「…あれ？」

翌日、足跡覧に昨日の人の名前があった。
コメントには、

『昨日はありがとう。
良かったら俺と、友達になってくれないかな？』

そう書いてあった。
別に、こうなってほしいとか、ああなってほしいとか。
そんな欲望はなかった。
だから、

『いいですよー

これから、よろしくお願いします。』

そう返した。

何故か、急に頬が軽くなって・・・
ニコリと、微笑んでいた。

*

あれから、私とあの人の文通は多くなり、
毎日がだんだん楽しくなってきた。

彼は「咲夜」というハンドルネームを使い、いつも優しく接してく
れた。

だから私も、「唯花」というハンドルネームで、彼と、咲夜さんと
いつもメールをしていた。

しばらく時が経ち、私達はお互いを意識し始めたのかな？

咲夜さんから、「今度の日曜日、暇？ 暇なら…ちよっと会ってみ
ない？」とメールが来た。

ときどきする心臓。

ときどきで震える親指を動かし、「暇ですよ！ じゃあ日曜日、ど
うします？」。

そうメールを返した。

*

午前10時に、決めた駅前に集合。

お互い分かりやすくするため、外見などを教えあった。

中学2年生なのに、こんなの良いのかな？

そんな疑問はあったけど、良い事に咲夜さんも中？。

こんな良い話はあるのだろうか。
どきどき、

高ぶる心臓。

「唯…花さん、ですか？」

「っ…!!?」

急に声をかけられ、止まりそうになる心臓。
どきどきどき、

心臓が五月蠅いくらいに鳴る。

あ…!!

咲夜さん、かな？

すっごくカッコいい男の子がはなしかけてきた。

咲夜さんだ！

その証拠に、さっき「唯花」って。

「さっ、咲夜さんですか？」

「はい。咲夜です。唯花さんで合ってますよね？」

「はいっ！唯花ですッ」

声、裏返ってて変じゃないかな？

どきどき鳴る、心臓の音。

聞こえてないかな？

変に、思われてないかな？

変に意識してしまう。

しかも、相手は超が沢山つくほどイケメン。
かっこよかった。

「良かった。やっと会えましたね」

「は、はいっ」

「はは。詰まっていますよ？ 大丈夫ですか？」

ふっと笑う咲夜さん。

その仕草にも、表情にもドキドキしてしまう。

「大丈夫です…／＼」

「えっと、じゃあどうしようか…？」

「あ、」

そうだよな。

咲夜さんは、こういうの慣れてるのかなあ…？

うん、すっごく慣れてるよね。

平然とする咲夜さん。

前もこういう風な経験あったのかな。

咲夜さんが目の前にいる。

そう考えるだけで、どきどき。

私のコンプレックスの妄想があ…；

「じゃあ、とりあえず予約してあるお店に行こう。ご飯食べて、落ち着こうよ」

「は…はい！／＼」

ニコッと笑う咲夜さんに一目惚れした。

そう気付くのは、一時間後だった。

1章 ・ 出会いの種は ・ (後書き)

『「お」から始まる。』、どうですか？
作者も作者で、全然、恋愛経験が薄いので、「恋愛ってこんなモン？」や

「もうちょっとリアリティがほしい」などと思うと思います。
ですが、設定からストーリーまで、愛を込めて書きました。
小説を書くと、時々一人で突っ走ってしまうクセがあるので、何度も確認をして投稿しています。

何か意見がありましたら、碧汰まで気軽にお願いします。
感想も、良い事から悪い事まで、書いてくださると嬉しいです。

第一章、臨と咲夜の恋はいかがでしたか？

この2人は本当に純粹で、
書いてて楽しいです。

では、読んでくれてありがとうございます！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8982n/>

「お」から始まる。

2010年10月11日02時51分発行